

令和3年度 財務レポート



公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学

理事長あいさつ

本学は、2016年4月に地域の若者に高等教育の機会を広く与えるべく公立大学法人となり、2018年4月には、山口県内初の薬学部薬学科を設置しました。これらを契機に山陽小野田市の落ち着いた教育環境に根づき、自治体や企業からの連携協力をいただきながら、“教員と学生の近さ”、“学生同士そして地域との緊密な繋がり”などの本学の魅力と、地域からの熱いご支援をいただく素晴らしい環境のもとで、学生みずからが有意義な大学生活を実感でき、「本学に入学して本当に良かった」と言っていただけの、“山陽小野田スマイルシティキャンパス”を目指しています。

少子化による就学人口の減少など激化する大学間競争、スマート社会の到来などの非常に複雑な社会構造の急速な変化を伴うなかで、本学に課せられた社会的使命を踏まえ、より一層のプレゼンスを継続的に高めて勝ち残っていくために、2023年4月には、工学部に数理情報科学科を設置します。

このような状況下においても、法人の安定した経営基盤のもと、創設以来の歴史と伝統を受け継ぎ、工学並びに薬学分野の教育研究を通して人材を育て地域と共に発展してまいります。

そのために、教職員が一丸となって戦略的かつ革新的な大学運営に努め、効率的かつ有効な業務遂行を意識した上で、強固な財政基盤の構築を図り、コンプライアンスを徹底することで、本学のステークホルダーである学生、御父母、市民、県民の期待と信頼に応え、選んでいただける地域社会との連携拠点づくりを進めてまいります。

学生たちが素晴らしい出会いを大切にして、実力を持って自らの将来を拓き、世界に大きく羽ばたけるように全力を尽くしますので、皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ここに2021年度の財務レポートをまとめましたのでご報告致します。皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



公立大学法人山陽小野田市立
山口東京理科大学
理事長 池北 雅彦

目次

理事長あいさつ	1
決算総括	2
貸借対照表	3
損益計算書	4
キャッシュ・フロー計算書	5
行政サービス実施コスト計算書	6
決算報告書	7
令和3年度の主な取組み	
教育に関する取組み	8
研究に関する取組み	10
地域貢献に関する取組み	12

決算総括

令和3年度決算については、法人全体として159,291千円の当期総利益を計上しました。収入については、受託研究費等の外部資金獲得額の増加がありましたが、学生等納付金収入の減少や工事費の支払時期の変更及び研究機器整備実施の延期により目的積立金取崩収入が減少し、収入合計で当初予算比278,932千円の減少となりました。支出については、外部資金獲得に伴い研究に係る経費の増加や、目的積立金を財源とした工事費の支払時期を変更したことにより、支出合計で当初予算比432,533千円の減少となりました。

財務諸表相関図

貸借対照表 (P.3)

資産	固定資産	固定負債	負債
		流動負債	
	流動資産	資本金	純資産
		資本剰余金	
		目的積立金	
	現預金	当期末処分利益 (当期総利益)	

利益処分に関する書類 (P.4)

当期末処分利益(当期総利益)
利益処分額 目的積立金(積立額)

キャッシュ・フロー計算書 (P.5)

業務活動	(支出)	業務活動(収入)
財務活動	(支出)	財務活動(収入)
投資活動	(支出)	投資活動(収入)
	資金期末残高 (一部)	

損益計算書 (P.4)

経常費用	業務費	運営費交付金収益	経常収益
		自己収入等	
	一般管理費	臨時損失	臨時利益
	当期総利益	目的積立金取崩額	

行政サービス実施コスト計算書 (P.6)

損益計算上の費用	経常費用	(控除)自己収入等
		(差引)業務費用
		機会費用
	臨時損失	

行政サービス
実施コスト

損益外減価償却相当額
引当外退職給付増加見積額 等

貸借対照表

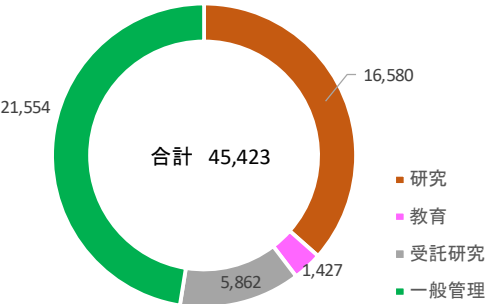
貸借対照表は、決算日（令和4年3月31日）時点における資産・負債・純資産を表示した、財政状態を明らかにするための報告書です。貸借対照表の負債・純資産はどのようにして資本を調達したかを表し、資産は調達した資本をどのように使用しているのかを表します。

（単位：千円）

区分			令和3年度 開始時	令和3年度 期末時	区分			令和3年度 開始時	令和3年度 期末時
資産の部	土地		816,130	816,130	負債の部	資産見返負債		744,440	737,354
	建物		2,348,025	2,258,208		長期リース債務		-	24,370
	構築物		34,866	30,679		固定負債合計 ④		744,440	761,724
	車両運搬具		2,810	1,753		運営費交付金債務		50	-
	工具器具備品		297,813	258,993		預り補助金等		-	-
	工具器具備品（リース）		1,290	36,230		寄附金債務		25,301	29,259
	図書		319,404	322,913		前受受託研究費等		7,159	6,496
	建設仮勘定		-	16,500		前受共同研究費		6,780	4,859
	有形固定資産合計		3,820,338	3,741,406		未払金		156,417	210,247
	ソフトウェア		29,843	5,586		未払消費税等		2,422	3,183
	特許権		578	495		リース債務		3,558	6,092
	特許権仮勘定		2,705	3,053		前受金		8,277	6,571
	無形固定資産合計		33,126	9,134		預り科学研究費補助金		27,607	21,904
	長期前払費用		6,703	5,931		預り金		19,692	21,028
	長期性預金		-	-		流動負債合計 ⑤		257,263	309,640
	投資その他の資産合計		6,703	5,931		負債合計 ⑥（④+⑤）		1,001,703	1,071,364
	固定資産合計 ①		3,860,167	3,756,471	純資産の部	資本金（地方公共団体出資金）		3,785,842	3,785,842
	現金及び預金		1,194,790	1,397,187		資本剰余金		▲ 680,536	▲ 825,386
	未収学生納付金収入		6,152	9,588		利益剰余金		1,036,479	1,195,770
	その他未収入金		37,165	15,101		純資産合計 ⑦		4,141,785	4,156,226
	前払費用		45,214	49,243					
流動資産合計 ②			1,283,321	1,471,119					
資産合計 ③（①+②）			5,143,488	5,227,590	負債・純資産合計 ⑧（⑥+⑦）			5,143,488	5,227,590

工具器具備品目的別内訳

（単位：千円）



令和3年度に取得した工具器具備品の目的別の内訳です。取得価額を表し、減価償却前の金額を記載しています。

損益計算書

(単位: 千円)

区分		令和3年度
経常費用	教育経費	381,820
	研究経費	155,629
	教育研究支援経費	93,070
	受託研究費	24,504
	共同研究費	20,356
	人件費	1,405,349
	業務費合計	2,080,727
	一般管理費	496,406
	雑損	285
経常費用合計①		2,577,417
経常収益	運営費交付金収益	1,557,892
	授業料収益等	886,573
	受託研究等収益	24,612
	共同研究収益	20,392
	寄附金収益	10,227
	補助金等収益	89,338
	資産見返負債戻入	108,860
	財務収益	339
	雑益	38,426
経常収益合計②		2,736,658
経常利益③(②-①)		159,241

損益計算書は、ある一定期間（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）の業務活動の成果を表した報告書です。経営の理念に基づいてサービスを社会に提供し、満足していただいた活動の結果を利益（又は損失）として計算したものです。

人件費内訳

役員人件費 : 47,106千円
教員人件費 : 1,038,359千円
職員人件費 : 319,884千円

授業料収益等内訳

授業料収益 : 729,601千円
入学金収益 : 107,696千円
検定料収益 : 47,881千円
手数料収益 : 1,395千円

臨時利益④	1,961
臨時損失⑤	1,911
当期純利益⑥(③+④-⑤)	159,291
当期総利益⑦	159,291

利益処分に関する書類（要約）

(単位: 千円)

当期末処分利益	
当期総利益	159,291
積立金振替額	
教育研究の質の向上及び施設整備積立金	980,984

(単位: 千円)

利益処分額	
積立金	1,140,275

地方独立行財政法人会計基準第94により、中期目標期間の最後の事業年度に積立金として整理する額となります。

キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、一会計期間の収入（キャッシュ・イン）と支出（キャッシュ・アウト）を捉え、キャッシュの流れを計算して表示する報告書です。

（単位：千円）

区分		令和3年度
支出	原材料、商品又はサービスの購入による支出	▲ 469,612
	人件費支出	▲ 1,414,614
	その他の業務支出	▲ 429,493
収入	運営費交付金収入	1,645,940
	授業料等収入	779,198
	受託研究等収入	59,920
	補助金等収入	89,784
	寄附金収入	21,319
	その他の収入	55,920
	預り金の純増減額	▲ 4,367
業務活動によるキャッシュ・フロー合計 ①		333,995
支出	定期預金の預入れによる支出	▲ 120,000
支出	有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出	▲ 128,378
収入	定期預金の払戻しによる収入	120,000
収入	利息及び配当金の受取額	339
投資活動によるキャッシュ・フロー合計 ②		▲ 128,039
支出	ファイナンス・リース債務の返済による支出	▲ 3,558
財務活動によるキャッシュ・フロー ③		▲ 3,558
資金増加額 ④(①+②+③)		202,398
資金期首残高 ⑤		1,074,790
資金期末残高 ⑥(④+⑤)		1,277,187

資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金	1,397,187,000 円
定期預金	▲ 120,000,000 円
資金期末残高	1,277,187,000 円

重要な非資金取引

工具器具備品	6,619,400 円
図書	529,398 円
合計	7,148,798 円

資金運用について

当法人は、資金運用については地方独立行政法人法第43条の規定に基づき、預金、国債、地方債及び政府保証債等に限定しております。

ファイナンス・リース

- ①ソフトウェア 14,715千円
（平成28年から6年契約
年間 2,452千円の支出）
- ②工具器具備品 5,530千円
（平成29年から5年契約
年間 1,106千円の支出）
- ③工具器具備品 36,555千円
（令和3年から6年契約
年間 6,092千円の支出）

行政サービス実施コスト計算書

(単位:千円)

区分		令和3年度
業務費用	業務費	2,080,727
	一般管理費	496,406
	雑損	285
	臨時損失	1,911
	損益計算上の費用合計①	2,579,328
	授業料等収益	▲ 886,573
	受託研究等収益	▲ 45,004
	寄附金収益	▲ 10,227
	資産見返運営費交付金等戻入	▲ 16,523
	資産見返寄附金戻入	▲ 35,551
	雑益・臨時利益等	▲ 25,288
(控除)自己収入等合計②		▲ 1,019,165
業務費用合計③(①+②)		1,560,163
損益外減価償却等相当額④		144,850
引当外賞与増加見積額⑤		1,984
引当外退職給付増加見積額⑥		24,387
機会費用	国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用	514,610
	地方公共団体出資の機会費用	6,369
	機会費用合計⑦	520,979
行政サービス実施コスト(③+④+⑤+⑥+⑦)		2,252,363

行政サービス実施コスト計算書は、本法人が業務を運営するにあたって、市民のみなさまに負担いただいているコストを表す報告書です。業務費用に加えて、機会費用等（山陽小野田市の資産等を利用したことによる市民のみなさまにとっての負担額など）を加算したものから、業務運営により得られた自己収入等を控除して算出しています。

費用	機会費用 損益外のコスト
自己収入	行政サービス実施コスト

地域への経済波及効果

山口東京理科大学が立地することによる
地域への経済波及効果(令和3年度)

	山口県	山陽小野田市
直接効果	26.0 億円	14.8 億円
生産誘発額	21.4 億円	12.0 億円
付加価値誘発	13.4 億円	7.6 億円
総合効果	60.8 億円	34.4 億円

行政サービス実施コスト計算書における機会費用の計上方法

(1) 国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用の計上方法

山陽小野田市から、大学の建物等について無償貸与を受けており、これらについては、山陽小野田市における取得原価を基礎とした定額法による減価償却額相当額を計上しております。また、学外に設置された薬草園に係る使用料については、山陽小野田市都市公園条例に基づき算定した額を計上しております。

(2) 地方公共団体出資の機会費用の計上方法

機会費用は、新発 10 年国債の令和 4 年 3 月末の利回りを参考に 0.210% で計算しております。

決算報告書

第6期(令和3年度)

(単位:千円)

区分		予算額	決算額	差額 (決算-予算)
収入	運営費交付金収入	1,645,940	1,645,940	-
	補助金収入	102,424	104,726	2,302
	学生等納付金収入	784,110	783,744	▲ 366
	財務収入	249	339	90
	雑収入	10,524	22,918	12,394
	受託研究収入	22,606	28,268	5,662
	共同研究収入	24,662	15,999	▲ 8,663
	寄附金収入	8,170	21,319	13,149
	目的積立金取崩額	320,000	16,500	▲ 303,500
収入合計①		2,918,685	2,639,753	▲ 278,932
支出	教育経費	360,287	266,240	▲ 94,047
	研究経費	107,975	101,685	▲ 6,290
	教育研究支援経費	140,432	107,378	▲ 33,054
	受託研究費	23,225	27,335	4,110
	共同研究費	24,043	17,669	▲ 6,374
	寄附金	8,170	17,359	9,189
	人件費	1,463,493	1,398,827	▲ 64,666
	一般管理費	790,060	549,659	▲ 240,401
	予備費	1,000	-	▲ 1,000
支出合計②		2,918,685	2,486,152	▲ 432,533
収入-支出 (①-②)		-	153,601	153,601

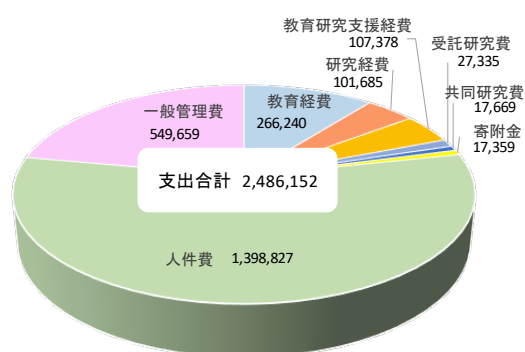
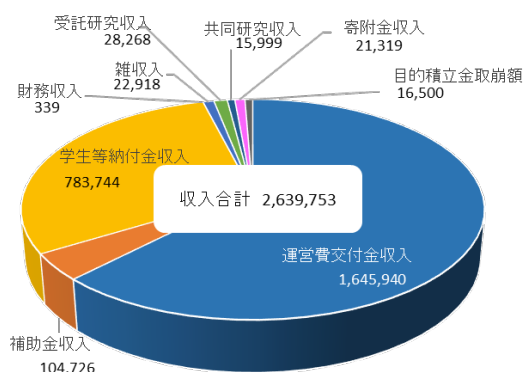
授業料収入等の減少

外部資金獲得額の増加

工事費の支払時期の変更及び
研究機器整備実施を延期したこと
により減少

外部資金獲得額の増加に伴い、
研究費の支出も増加

工事費の支払時期の変更等により減少



本学の収入には、①市等からの収入（運営費交付金など）、②自己収入（学生等納付金、補助金、受託研究費、寄附金など）、③その他の収入（財務収入など）があります。

中でも、自己収入は大学の経営努力によって大きく変動します。本学では、外部資金獲得に向けた取り組みなどを通して、さらなる自己収入の増加を目指しています。

令和3年度の主な取り組み

教育に関する取り組み

SciFinder-n 利用講習会が実施されました

4月21日(水)、化学情報協会の講師による「SciFinder-n 利用講習会」を実施しました。

例年、本学工学部応用化学科の3年生(物理化学実験履修生)を中心に、学生・教職員を対象に実施しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点からリモートで実施し、約100名の学生・教職員が受講しました。

SciFinder-nの概要についてご説明いただいた後、文献検索、構造検索、反応検索など、基本的な操作方法を実習形式で解説していただきました。

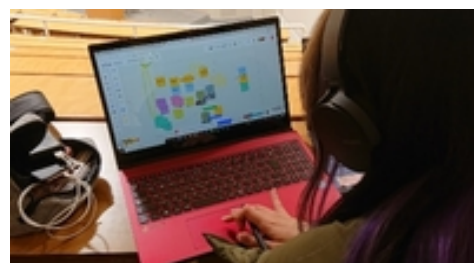
また、SciFinder-n ならではの機能もご紹介いただき、受講者の今後の研究活動に役立つ、たいへん有意義な講習会となりました。



「ニューノーマル時代の高大連携授業」を実施

1月26日(水)、本学と山陽小野田市内にある4高校が、ICT(情報通信技術)とデジタル文具を駆使した共同授業「ニューノーマル時代の高大連携授業」をオンラインにて実施しました。

この授業は、生徒たちが本学の学生たちと同一の時間に異なる受講場所(高校教室、大学教室、自宅等)で、本学の正規授業「教養の系譜：数学の時系列」を、デジタル文具である「Moodle(Web支援)」「Miro(Web黒板)」「Zoom(Web会議)」とICT端末(タブレット、ノートパソコン、電子黒板等)を駆使して共同で構築しました。



山口県GMPカレッジワークショップが開催されました

山口県GMPカレッジとは、山口県、山口県製薬工業協会、本学の産学公連携により医薬品製造所のGMP(Good Manufacturing Practice)に係る人材育成を目的とした事業です。

1月25日(水)に開催されたワークショップでは、薬学部3年生を対象として武田薬品工業株式会社光工場の皆様にご講演いただきました。

講演では、まず光工場長の藤原英喜様から、事業を通じて医薬品産業へ興味を持って頂きグローバルに活躍する人材になってほしいとご挨拶されました。

また、森田修一様、野本祐介様、高橋武様から、光工場の概要、バイオ医薬品やその品質試験の方法、製造プロセスにおけるバリデーション等について動画や図表を交えてご説明いただきました。



数理・データサイエンス・AI 教育プログラム「リテラシーレベル（プラス）」に選定

政府の「AI 戦略2019」では Society5.0 の実現に向けた人材育成が戦略的目標とされています。

その中で、大学等の高等教育機関の卒業単位として認められる数理・データサイエンス・AI 教育のうち、優れた教育プログラムを政府が認定する制度が設けられました。

本学では在籍する学部学科に関わらず、数理・データサイエンス・AI に関する科目を履修することを可能とした学部横断型プログラムである「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」を整備しており、この度、文部科学大臣より「リテラシーレベル」について認定されました。

また、その中でも、本学の数理・データサイエンス・AI 教育プログラムが「薬工連携による教育、地方自治体との連携による課題解決型文理融合教育」といった特色のある取り組みを実施しているとして「リテラシーレベル プラス」に選定されました。



第3回ダイバーシティ推進セミナーを開催しました

10月28日(木)に本学713教室において、第3回ダイバーシティ推進セミナーを開催いたしました。本セミナーは、文部科学省ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)事業の一環として、本学のダイバーシティ推進室とFD委員会との共催により開催しました。

本セミナーでは、山口大学副学長・ダイバーシティ推進室長の鍋山祥子先生をお招きして「大学がダイバーシティを推進する意義 - なぜ今大学でダイバーシティ推進を図らなければならないのか、- 「AI×研究データマッチングイベント」について」というタイトルでご講演いただきました。質疑応答も活発に行われ、鍋山先生によるご講演は、ダイバーシティの必要性から、山口県を取り巻く今後の状況も踏まえ、今後私たちがどのような姿勢で取り組むべきかを示唆してくださる、大変有意義なものでした。

本学では、これからも全学的にダイバーシティの推進に取り組んでまいります。



沸騰促進を利用した新たな冷却技術を開発

本学工学部機械工学科の結城和久 教授、海野徳幸 准教授、木伏理沙子助教（研究当時）、株式会社ロータス・サーマル・ソリューションらのグループは、新たな沸騰冷却技術を開発しました。

今回開発した技術では、ロータス金属（多孔質金属）による冷媒の沸騰促進効果を利用し、従来よりも大幅に冷却性能を向上させました。今後は、電気自動車用インバーターや大型サーバー用 CPU 等の冷却技術として社会実装が期待されます。

この研究は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）企業主導フェーズ NexTEP-B タイプの支援をもとに行われたものです。



TEAC2021 を本学で開催

10月30日（土）～11月1日（月）、「第65回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会（TEAC2021）」が開催されました。

香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会（Symposium on the Chemistry of Terpenes, Essential Oils and Aromatics）は、1957年に設立された学術団体で、毎年討論会を開催しています。第65回目となる年次大会（TEAC2021）は、本学工学部応用化学学科の北條信教授が世話人代表を務め、本学キャンパスを会場として開催されました。当日は全国各地から約240名の皆様にご参加いただき、盛況のうちに終了いたしました。



魅力ある大学づくりに向けて



令和3年度学生表彰式にて

① 志願者情報

令和4年度の入学者選抜試験において、入学定員工学部200人に対して1,671人、薬学部120人に対して1,085人の志願者がありました。

② 学生表彰

研究および学業、課外活動、社会活動等において優れた評価を受け、本学の名誉を高めた個人または団体を表彰するもので、今年度は優秀賞2件、功労賞3件、奨励賞7件が表彰されました。

③ 就職率

令和3年度の学部卒業者98%、修士課程修了者100%という、高い就職率を達成することができました。

「第 26 回応用物理学会中国四国支部学術講演会 発表奨励賞」を受賞

本学学生が第 26 回（2021 年度）応用物理学会中国四国支部学術講演会発表奨励賞を受賞しました。

同賞は同学術講演会において応用物理学の発展に貢献し得る優秀な研究成果の講演をした学生に対し授与されます。

■受賞者：大学院工学研究科工学専攻修士課程
2 年 古賀 雄大さん

■講演論文：p 型 Ge 系クラスレート半導体における熱電特性の Cu 組成依存性



「第 15 回日本原子力学会中国四国支部研究発表会優秀発表賞」を受賞

本学学生が 2021 年度第 15 回日本原子力学会中国・四国支部研究発表会において「優秀発表賞」を受賞しました。

同賞は、核融合発電炉の開発に貢献し得る優秀な研究成果として授与されます。

■受賞者：大学院工学研究科工学専攻修士課程
1 年 堀 洋平 さん

■講演論文：一方向性ポーラス型ヒートシンクを用いた核融合炉ダイバータの冷却性能向上



令和 3 年度 研究推進機構 研究成果発表会について

令和 4 年 3 月 14 日に研究成果発表会が行われました。午前の部（薬学部）創薬学部門 30 テーマ、地域課題解決研究 5 テーマ、午後の部（工学部・共通教育センター）先端工学研究部門 14 テーマ、地域課題解決研究 3 テーマに分かれ、主に学生発表を中心としたポスター形式で実施されました。

また、地域課題解決研究事業は、本学の研究活動の振興を図るとともに、地（知）の拠点として、地域産業の振興や地域課題の解決に貢献することを目的として取り組んでおり、市や商工会議所からも参加され、学生、教員の発表を熱心に聞かれていました。

なお、当日は教員、学生、市、商工会議所、事務職員計 123 名の参加があり、午前の部、午後の部共に終始活発な質疑応答が交わされました。



2021 年度 薬草による健康づくり講座 開講

6 月 26 日（土）に本学が共催している「2021 年度 薬草による健康づくり講座」が開講されました。

当該講座は「薬草を気軽に楽しく学びながら、健康寿命を延ばしてみませんか？」をコンセプトに、健康に関する様々な講義や体験活動を年 10 回実施予定であり、楽しみながら学ぶことができる内容となっています。

第 1 回目は、株式会社花の海様にご協力いただき、前島昭博代表取締役社長の御講演や施設内見学をさせていただき薬草の育て方などを学びました。



山口県立山口高等学校「先端科学セミナー」 を本学にて開催

8 月 18 日（火）、山口県立山口高等学校理数科 2 年生 40 名が「先端科学セミナー」の一環で本学を訪れました。

当日は、大学概要説明を受けたのち、電気工学科 穂本光弘 講師の模擬講義「交通流の科学」を受講しました。

環境に配慮した交通のために社会全体での交通の円滑化や自動運転技術などが重要ということを理解する機会となったようです。

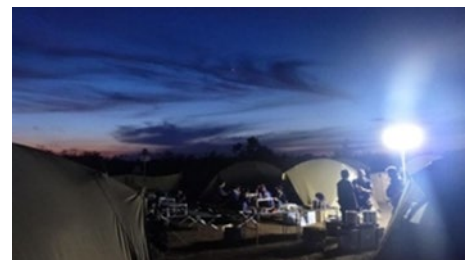


本学薬学部教員に外務省から感謝状

令和 3 年 4 月に本学薬学部の恵谷誠司教授に外務省から感謝状が贈られました。恵谷教授は平成 31 年 4 月にモザンビーク共和国で発生したサイクロン Idai による大規模な豪雨・洪水被害に対して派遣された国際緊急援助隊医療チーム 2 次隊の薬剤師として 2 週間参加し、国際協力の推進に寄与したことが評価されました。

医療チームは団長 1 名、副団長 2 名、医師 3 名、看護師 7 名、薬剤師 1 名、放射線技師 1 名、診療放射線技師 1 名、臨床検査技士 1 名、臨床工学技士 1 名、理学療法士 1 名、業務調整員 5 名の 24 名体制で構成されていました。

現在、恵谷教授は、国際緊急援助隊医療チーム・ロジスティクス班の委員として、派遣時の活動に欠かすことができない浄水システムの構築・整備などのプロジェクトに取り組まれています。



本学教員が「いきいきスマイルアップ体操！ガイドブック」を作成

本学の研究推進機構では、地域が抱える課題を教員が研究し、その成果を地域に還元する「地域課題解決研究事業」に取り組んでいます。

この度、地域課題として取り組んだテーマの1つである「健康と運動の習慣を身につけ、健康寿命を高める仕組みの構築」の成果として、本学共通教育センターの中村洋講師（研究代表者）および共同研究者の共通教育センター福田みのり准教授、山陽小野田市地域包括支援センター（荒川所長）と本学事務局長らが連携し、「いきいきスマイルアップ体操！ガイドブック」を作成しました。



本学学生が植生の魅力を紹介したパンフレットを作成

本学では、山陽小野田市の組織・団体とともに地域活性化に取り組んでいます。

山陽小野田市植生（はぶ）地区の活性化に取り組む団体「植生てる」（代表：久保田宏司さん）の依頼を受け、本学共通教育センターの中村洋講師の指導のもと、学生有志が植生の活性化に取り組みました。

取り組みに当たった学生は、竹谷颯真さん、塩崎祐太さん、北島薫さん、水野翔真さん（いずれも工学部4年）、久保田美春さん（薬学部3年）の5名です。

2020年11月に現地調査を行い、1月からは写真撮影や料理を試食するなど取材をして、魅力ある場所やお店を紹介するパンフレットをこのたび完成させました。



本学教員が執筆した参考書「やさしい中学理科」を市内中学校に寄贈

9月8日（水）、山陽小野田市における中学生の理科教育に役立ててもらうために、薬学部薬学科の小野田淳人助教が執筆した参考書「やさしい中学理科」20冊を、山陽小野田市に寄贈しました。

「やさしい中学理科」は、学研プラスが発行する参考書「やさしい中学」シリーズの一つで、中学3年間で学ぶ理科の単元を、先生と生徒の会話形式で楽しく学べるようになっています。

望月正隆学長と小野田助教が市役所を訪問し、山陽小野田市の藤田剛二市長と長谷川裕教育長に目録を贈呈。小野田助教から「理科を学ぶ意義、楽しさを伝えたいという思いで執筆しました。市の中学教育の発展に少しでもお役に立てれば幸いです。」と挨拶がありました。

藤田市長から「昨年、市内の小・中・高・大の包括連携協定を結び、その一環として、このたびの参考書を寄贈いただくことになりました。理科は楽しいと思ってもらえる素晴らしい内容です。これからも大学のある街として人づくりを進めたい。」とのお言葉をいただきました。

また、長谷川教育長から「私も中学理科を教えていました。理科教育の出発点は不思議だな、なぜだろう、調べてみよう、これがスタートです。まさにそれが凝縮された本です。理科好きの子どもたちが一人でも増えるようにしたい。」とのお言葉をいただきました。

寄贈しました「やさしい中学理科」は、市内の全中学校に配られます。

